

売上高83,131百万円で0.7%の増収、経常利益は470百万円で1.9%の減益
 [既存店は売上高1.5%減、経常利益5.3%増で減収増益]

株式会社 PLANT

1. 売上高

- 売上高は83,131百万円、3月開店の大熊店、5月開店の福知山店、7月開店の鏡野店の新店3店が寄与したが、平成19年9月に新潟県中越沖地震の被害で刈羽店が閉店したため、前年比0.7%と微増にとどまった。
- 予算に対しては788百万円、0.9%の未達。
- 今期から売上の計上基準を変更(不動産賃貸収入を加算)していることから、商品売上高は82,929百万円(0.5%増)となった。
- 既存店では、上期において秋、冬、春先と続いた天候不順の影響を、下期には春以降のガソリン価格の高騰の影響があり、通期では前期比▲1.5%となった。
- 客数に関してはガソリン価格の上昇の影響から前年比▲2.8%、しかし、客単価が既存店全体で1.3%増加となった。

店 舗	店数	商品売上高		客数	客単価	商品単価	
		(百万円)	前年比(%)	前年比(%)	前年比(%)	前年比(%)	
全 店	20	82,929	0.5	-1.5	2.0	-4.1	* 賃貸料収入202百万円を除く。
既存店	17	78,445	-1.5	-2.8	1.3	0.5	

- 部門別では、電器、家具、寝具、かばん、スポーツ用品、文具、玩具、DIY、園芸生もの等、季節商品中心にノンフーズが大幅ダウン。
- その中で、フーズが精肉、酒類、一般食品、菓子等が好調。

部 門	商品売上高		売上高	備 考
	(百万円)	前年比(%)	構成比	
			(%)	
フーズ	54,179	2.5	65.2	酒類、菓子、一般食品、精肉が前年比プラス
ハウスキーピングニーズ	20,224	-1.0	24.3	ペット用品、制度化粧品が健闘
ホームニーズ	4,289	-7.8	5.2	DIY、園芸生もの、軽家具、寝具低調
エンジョイニーズ	4,233	-8.0	5.1	電気、スポーツ・ゴルフが不調、レジャー、釣り具が健闘

2. 損 益

- 粗利益率は、前期同様、値入率のアップとリバートの確保が進展し、18.7%から18.9%となった。
- 販管費率は、人件費、広告宣伝費等で大幅に抑制されたものの、新店3店にかかる諸経費が高み全店では18.4%から18.2%とわずかに減少した。
- 経常利益は470百万円で前期比8百万円(▲1.9%)の減益となった。

○この結果、当期の損益計算書は次の通り。

	前期		当期		前年比 (%)
	(百万円)	構成比(%)	(百万円)	構成比(%)	
売上高	82,543	100.0	83,131	100.0	0.7
売上総利益	15,395	18.7	15,673	18.9	1.8
販管費	15,144	18.4	15,094	18.2	-0.3
営業利益	250	0.3	578	0.7	130.6
営業外損益	228	0.3	-107	-0.1	-
経常利益	479	0.6	470	0.6	-1.9
特別損益	-2,218	-2.7	-194	-0.2	-
当期純利益	-1,136	-1.4	267	0.3	-

○設備投資額……3,839百万円(内訳、大熊店657、福知山店1,495、鏡野店1,583、その他104)

3. 28期予想

○全店では27期に開店した3店舗が1年間フルに寄与するので通期8.2%増の見込み。

○既存店は商品力強化と大型店に導入した書籍の効果等を加味し0.1%増加の見込み。

店 舗	上期		下期		通期	
	(百万円)	前年比	(百万円)	前年比	(百万円)	前年比
全 店	44,000	14.6	46,000	3.2	90,000	8.3

○粗利益率はロスの低減と仕入値引きの拡大を図り前期比0.1ポイントアップの19.0%。

○大型店を中心に人件費等の抑制を図り、販管費率は17.7%(前期比▲0.5ポイント)の見込み。

	通期	
	(%)	前年比
粗利益率	19.00	0.1
販管費率	17.70	-0.5

○この結果、通期の業績予想は次の通りで、増収増益の見込み。

	前通期		当通期		前期比 (%)
	(百万円)	構成比(%)	(百万円)	構成比(%)	
売上高	83,131	100.0	90,000	100.0	8.3
売上総利益	15,673	18.9	17,100	19.0	9.1
販管費	15,094	18.2	16,000	17.8	6.0
営業利益	578	0.7	1,100	1.2	90.2
経常利益	470	0.6	1,000	1.1	112.4
当期純利益	267	0.3	500	0.6	87.0

以 上